

平成22年度 畑作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成22年12月2日(木)～3日(金)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者35名、委託関係者55名ほか、計121名の参集を得て、除草剤の作用性試験11薬剤、

適用性試験36薬剤、生育調節剤の作用性試験1剤、適用性試験4剤、及び展着剤1剤について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成22年度 畑作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの									
薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判定	使用基準					使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	
AC-263液 イマザモックスアンモニウ ム塩 0.85% [BASFジャパン]	大豆	実	一年生広 葉雑草	茎葉兼 土壌 (全面)	大豆出芽直前 ～播、雑草発生 始～本葉展開 期	200～ 300mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	北海道	・作物に飛散しないように散 布する ・体系処理;イネ科雑草対象 の土壌処理剤を使用する
AH-01液 グルホシネートPナトリウ ム塩 11.5% [明治製菓、北興 化学工業]	大豆	実・ 継	一年生雑 草	茎葉	耕起または播種 前 雑草生育期(草 丈30cm以下)	300～ 500mL <水量100 ～150L>	全土壌	東北以南	・播種後出芽前処理 における水量150Lで の年次変動の確認 (東北以南)
				茎葉 (畦間)	大豆生育期 雑草生育期			全域	・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する
				茎葉 (畦間・ 株間)	大豆生育期(本 葉5葉期以降)、 雑草生育期(草 丈20cm以下)				・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本 葉にかからないように散布す る
	大豆 (収穫前 全面散布)	継							・収穫前全面茎葉処 理での効果、葉害の 確認(東北以南)
	ばれいしょ	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉	ばれいしょ植付 後萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	100～ 200mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域	
				茎葉 (畦間)	ばれいしょ生育 期 雑草生育期	300～ 500mL <水量100 ～150L>			・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する
	ごんにかく	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉	ごんにかく植付 後萌芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	300～ 500mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域	
				茎葉 (畦間)	ごんにかく生育 期 雑草生育期				・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する
AK-01液 グリホサートイソプロピ ルアミン塩 41% [TAC普及会]	菜豆	実	一年生雑 草	茎葉	耕起または播種 前 雑草生育期(草 丈30cm以下)	250～ 500mL<水 量25～ 50L>	全土壌	東北以南	・少量散布専用ノズルを使 用する
	かんしょ	継							・効果、葉害の確認

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判 定	使用標準					使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	
AL-513乳 アラコール 30%、 リニエロン 12% [日産化学工業]	大豆	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	400～ 600mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	
ALH-0831乳 クレジム 23% [アサダ ライフサイエ ンス]	大豆	実・ 継	一年生イ ネ科雑草(スズ メノカタビラを 除く)	茎葉	大豆生育期、 イネ科雑草 3～5葉期	35～50mL <水量 100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する ・イネ科雑草6～8葉期 処理での年次変動の 確認(北海道/東北以 南)
					大豆生育期、 イネ科雑草 5～8葉期 (草丈30cm以下)	50～75mL <水量 100L>			
			スズメノカタ ビラ		大豆生育期、 イネ科雑草 3～5葉期				
ANK-553(改)乳 ヘンデメタリン 30% [BASFジャパン]	かんしよ	実	一年生雑 草	土壌 (畦間)	かんしよ播種後、 雑草発生前	200～ 400mL<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・作物に飛散しないように散 布する ・キク科、ツクサには効果が劣る
	おけら(育 苗圃)	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～ 300mL<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・キク科、ツクサには効果が劣る
	おけら(本 圃)				植付後萌芽前 雑草発生前				・おけら生育期処理 での効果、薬害につ いて年次変動の確認
					おけら生育期 雑草発生前				・中耕または培土後に使用す る ・キク科、ツクサには効果が劣る
BAH-0805乳 シメタミドP 19.7%、 ヘンデメタリン 23.1%(w/w) [BASFジャパン]	とうもろこし (飼料用お よび食用)	実・ 継	一年生雑 草	土壌	とうもろこし播種 後～2葉期、 イネ科雑草2葉期 まで	200～ 400mL<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・スズメノカタビラに対す る効果について年次 変動の確認(北海道)
	ばれいしよ	—							(作用性)
BAS-656乳 シメタミドP 64% [BASFジャパン]	とうもろこし (飼料用、食 用)	実・ 継 (従来ど おり)	一年生雑 草 (アカザ科、ア ブラナ科、タ デ科を除く)	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	75～ 120mL<水 量100L>	全土壌 (砂土を 除く)	東北以南	・出芽前～揃期処 理での効果、薬害の 確認(飼料用、食用) ・播種後出芽前処 理での効果、薬害の確 認(北海道:飼料用、 食用)
			一年生イ ネ科雑草 (スズメノカタビ ラを除く)		とうもろこし1～2 葉期、 イネ科雑草2葉期 まで			北海道	
BCH-081フロアブル シフルフェニカン 8.4% フルフェナセット 33.6% [バイエル Crop Science]	春播小麦	—							(作用性)
CG-119 α 乳 S-トラコール 83.7% [シンジェンタ ジャパ ン]	かんしよ	実・ 継	一年生雑 草	土壌	かんしよ播種後、 雑草発生前	70～ 130mL <水量 70L>	全土壌(砂 土を除く)	温暖地以 西 全域	・広葉雑草(特にアカザ科)には 効果が劣るので、イネ科雑草優 占圃場で使用すること ・有機物の多い土壌や粘土 質の土壌では所定範囲内で 多めの薬量を散布する
					かんしよ播種前、 マルチ前、 雑草発生前	70～ 130mL <水量70 ～100L>			
DPX-16顆粒水和 チフェンスフロムメチル 75% [デュポン]	とうもろこし (飼料用)	実・ 継	一年生広 葉雑草、キ シキン	茎葉	とうもろこし 3～5葉期、 雑草生育期	2～4g<水 量100L>	全土壌	全域	・葉の退色、萎凋、生育抑制を 生じることがある ・とうもろこし2～3葉 期処理での、一年生 広葉雑草に対する効 果の確認(東北以南) ・少水量(25.50L)散 布での効果、薬害の 確認(東北以南) ・薬害の発生要因に ついて
			キシキン		とうもろこし2～3 葉期、 雑草生育期	2g <水量 100L>		東北以南	

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判 定	使用規程					使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	
HCW-201フロア ル DCMU 50% [保土谷UPL、 北興化学]	大豆	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	150～ 200mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・タデ類には効果が劣る ・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本 葉にかからないように散布す る ・イネ科雑草が2葉期より生育 している場合には展着剤を加 用する
			茎葉兼 土壌 (畦間・ 株間)		大豆生育期 (本葉5葉期以 降)、 雑草生育期 (草丈15cm以下)	150～ 200mL <水量 100L>			
	小豆	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	150～ 200mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・タデ類には効果が劣る ・過湿条件では黄化や生育 抑制を生じることがある ・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈15cm以下で散 布する ・イネ科雑草が2葉期をこえる 場合には、展着剤を加用する
			茎葉兼 土壌 (畦間)		小豆生育期、 雑草生育期	100～ 200mL <水量 100L>			
HCW-201フロア ル つづき	さとうきび (株出)	実・ 継	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・多年生広葉雑草に 対する効果の確認
	さとうきび (春植)	実・ 継	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・多年生広葉雑草に 対する効果の確認
	さとうきび (夏植)	継							・効果、葉害の確認
HMB-0901フロア ル フェンメチファム 9.0%、 メタミロン 27.0% [ホクサン]	てんさい (移植)	実・ 継	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい定植活 着後、 雑草発生摘期	500～ 700mL <水量50 ～80L>	全土壌	北海道	・展着剤を加用する ・クーンハには効果が劣る場合 がある
Hoe-866液 グルホシネート 18.5% [バイエル クロップサイ エンス]	大豆	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	大豆生育期 雑 草生育期	300～ 500mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域	・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する ・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本 葉にかからないように散布す る
			茎葉 (畦間・ 株間)		生育期(本葉5葉 期以降)、雑草生 育期(草丈20cm 以下)				
	ばれいしょ	実	一年生雑 草	茎葉 (畦間)	ばれいしょ生育 期、 雑草生育期	300～ 500mL <水量 100L>	全土壌	北海道	・作物に飛散しないように散 布する ・雑草の草丈30cm以下で散 布する
HPW-102水和 DCMU 80% [保土谷UPL]	さとうきび (株出)	実	一年生雑 草、多年生 広葉雑草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150g<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	
	さとうきび (春植)	実	一年生雑 草、多年生 広葉雑草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150g<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・新植では生育、分げつ抑制 を生じる事がある ・メソキタハミには効果が劣る 場合がある
	さとうきび (夏植)	実・ 継	一年生雑 草、多年生 広葉雑草	茎葉兼 土壌	さとうきび生育 期、雑草生育期 (草丈15cm以下)	100～ 150g<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	全域	・新植では生育、分げつ抑制 を生じる事がある ・葉害の発生要因に ついて
HPW-105乳 トリフルアリン 33% IPC 11% [*保土谷UPL、タ ウケミカル日本]	大豆	継							・効果、葉害の確認
HPW-108マイクロ カプセル 既知化合物 45% [保土谷UPL]	とうもろこし (食用)	一							(作用性)

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
HSW-9104s乳 デスメディファム 2.3% フェンメディファム 10% S-メトラクロール 7.5% [ホクサン]	てんさい (移植)	実・継 へ従来どおり	一年生雑草	茎葉兼 土壌	てんさい定植活 着後、 雑草発生前期	500mL <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	北海道	・タデ科に効果が劣る場合がある	・水量50L処理での 効果、葉害の確認(北 海道)
MAH-0801顆粒 水和 エトフメセート 6.5% フェンメディファム 6.5% メタミロン 28% [マクテム・アガン・ ジャパン]	てんさい (移植)	実	一年生雑草	茎葉兼 土壌	定植活着後、 雑草発生前期	400～ 600g<水 量100L>	全土壌(砂 土を除く)	北海道	・展着剤を加用する	
MAH-0901フロアブル エトフメセート 15% メタミロン 35% [マクテム・アガン・ ジャパン]	てんさい (移植)	継								・効果、葉害の確認 (北海道)
NC-3607フロアブル キザロホップエチル 7% [日産化学工業]	大豆	実・継	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	茎葉	大豆生育期、 イネ科雑草 3～8葉期 (草丈30cm以下)	200～ 300mL <水量25 ～100L>	全土壌	北海道	・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する。 ・少水量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	・少水量25～50Lへの 拡大(東北以南)
					大豆生育期、 イネ科雑草 3～10葉期	200～ 300mL <水量 100L>		東北以南		
NC-622液 クサホサートカリウム塩 48% [日産化学工業]	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～ 500mL <水量25 ～100L>	全土壌	東北以南	・少水量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	・収穫前全面茎葉処理での 効果、葉害について年次変動の 確認
					播種後出芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)					
				茎葉 (畦間)	生育期 雑草生育期				・作物に飛散ないように散布する ・少水量(25～50L)の場合は 専用ノズルを使用する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
				茎葉	大豆黄葉摘期 ～成熟期(収穫7日以前)。 雑草生育期	500～ 1000mL <水量50 ～100L>			・黄葉摘期とは、着生葉のほとん どが黄化した時期を目安とする ・成熟の遅れた株に散布すると、 子実の変色やしわ粒等が発生す る場合がある ・水分含量の高い果実をつけた 雑草では、茎葉は枯れても果実 が残る場合がある	
	かんしょ	実・継	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前、 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～ 500mL <水量25 ～100L>	全土壌	全域	・少水量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	・播種直前処理での 葉害の確認
				茎葉 (畦間)	かんしょ生育期、 雑草生育期				・作物に飛散ないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布 する ・少水量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	
NH-9301液 ピラフルフェンエチル 2.0% [日本農業]	春播小麦	実	一年生広葉雑草	茎葉	小麦2～4葉期 (広葉雑草2～4 葉期)	50～ 100mL <水量 100L>	全土壌	北海道	・一過性の白斑を生じる場合 がある	

A.除草剤										
注1)アンダーラインは拡大部分 注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの										
薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判 定	対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	継続の内容
NP-55乳 セトキシジム 20% [日本曹達]	大豆	実	一年生イネ 科雑草(スズメノカタビ ラ除く)	茎葉	大豆生育期、イネ 科雑草3～5葉 期	150～ 200mL <水量25 ～150L>	全土壌	北海道	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	
					大豆生育期、イネ 科雑草5～8葉 期	150～ 200mL <水量100 ～150L>		東北以南	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する	
					大豆生育期、イネ 科雑草5～8葉 期 (草丈30cm以下)	200mL <水量 100L>		全域		
	ばれいしょ	実	一年生イネ 科雑草(スズ メノカタビラを 除く)	茎葉	ばれいしょ生育 期、イネ科雑草3 ～5葉期	150～ 200mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する	
					ばれいしょ生育 期、イネ科雑草5 ～8葉期 (草丈30cm以下)	200mL <水量 100L>		北海道		
	てんさい (育苗期、 ヘーバーボツ ト)	実	一年生イネ 科雑草(スズ メノカタビラを 除く)	茎葉	てんさい育苗 期、 イネ科雑草1～3 葉期	150～ 300mL<水 量150L> (0.3～ 0.6mL<水 量300mL> /ヘーバー ボツ6冊)	全土壌	全域		
NP-55乳 つづき	てんさい	実	一年生イネ 科雑草(スズメノカタビ ラ除く)	茎葉	てんさい生育 期、 イネ科雑草3～5 葉期	150～ 200mL <水量25 ～150L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	
					てんさい生育 期、イネ科雑草5 ～8葉期 (草丈30cm以下)	200mL <水量 100L>				
NP-61乳 デフラロキシジム 10% [日本曹達]	大豆	実・ 継	一年生イネ 科雑草	茎葉	大豆生育期、イネ 科雑草3～5葉 期	75～ 100mL <水量 100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する	・50mL処理での効果 の確認
			一年生イネ 科雑草(スズメノカタビ ラ除く)		大豆生育期、イネ 科雑草5～8葉 期			東北以南		
			一年生イネ 科雑草		大豆生育期、イネ 科雑草8～10葉 期 (草丈30cm以下)					
	ばれいしょ	継								・効果、被害の確認
	てんさい	実	一年生イネ 科雑草	茎葉	てんさい生育 期、イネ科雑草3 ～5葉期	75～ 100mL <水量 100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理:広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する	
			一年生イネ 科雑草(スズ メノカタビラを 除く) 多年生イネ 科雑草		てんさい生育 期、イネ科雑草5 ～8葉期 (草丈30cm以下) てんさい生育 期、イネ科雑草3 ～5葉期					
NP-65乳 トフラジール 3.6% [日本曹達]	どうもろこし (飼料用)	実・ 継	一年生雑 草	茎葉	どうもろこし3～5 葉期、雑草3～5 葉期	100～ 150mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域		・問題雑草への効果 の確認
	どうもろこし (食用)	実・ 継	一年生雑 草	茎葉	どうもろこし3～5 葉期、雑草3～5 葉期	100mL <水量100 ～150L>	全土壌	全域		・年次変動の確認 (北海道)

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判 定	使用標準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
SL-122顆粒水和 フルアジホップ 7% リニロン 30% [石原産業]	大豆	実・ 雑	一年生雑 草	茎葉兼 土壌 (畦間・ 株間)	大豆生育期(本 葉5葉期以降)、 雑草生育期(草 丈15cm以下)	170～ 330g <水量 100L>	全土壌(砂 土を除く)	東北以南	・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本 葉にかからないように散布す る	・播種後出芽前処理 での効果、葉害の確 認 ・畦間・株間処理での 効果、葉害の確認(北 海道) ・170g処理での年次 変動の確認 ・大豆5葉期以前の 処理での葉害の確認
SL-236(L)乳 フルアジホップ P 17.5% [石原産業]	てんさい	実・ 雑	一年生イ ネ科雑草 (スズメノカ タビラを除く)	茎葉	てんさい生育 期、 イネ科雑草3～5 葉期	75～ 100mL <水量25 ～100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用 する ・体系処理、広葉雑草対象の 土壌処理剤を使用する ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	・イネ科雑草6～8葉期 処理での効果、葉害 の確認(北海道)
SL-9507アブ ニコスルホン 4% [石原産業]	とうもろこし (飼料用)	実	一年生雑 草、多年生 イネ科雑草	茎葉	トモロコシ3～5葉 期、 雑草2～4葉期	100～ 150mL<水 量25～ 100L>	全土壌	全域	・殺虫剤との近接散布はさけ る ・処理後葉が変色(黄白化、紫 褐色など)することがある ・イヌホオズキ類には効果が劣る ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する	
SYJ-100乳 プロホルカルブ 78.4% [シンジェンタ ジャパ ン]	春播小麦	雑								・効果、葉害の確認 (北海道)
UPH-0027アブ フェンメディウム 16% [保土谷UPL]	てんさい (直播)	実	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい2葉期 以降、 雑草発生揃期	400～ 600mL <水量 100L>	全土壌	全域	・低薬量では効果が劣る場合 がある	
	てんさい (移植)	実	一年生広 葉雑草	茎葉	てんさい定植活 着後、 雑草発生揃期 中耕後、 雑草発生揃期	400～ 600mL <水量 100L>	全土壌	全域	・低薬量では効果が劣る場合 がある	
WOC-01液 グリホサートイソプロピ ルアミン塩 41.0% [三井化学アグロ]	大豆	雑								・効果、葉害の確認
YF-65L液 ジグワット 7.0% ハラコート 5.0% [シンジェンタ ジャパ ン]	大豆	雑								・効果、葉害の確認
ZK-122液 グリホサートカリウム塩 44.7% [シンジェンタ ジャパ ン]	大豆	実・ 雑	コウキヤガラ 一年生雑 草	茎葉	耕起または播種 7日以前 雑草 生育期(草丈 30cm以下) 播種後出芽前 雑草生育期(草 丈30cm以下) 茎葉 (畦間)	250～ 500mL <水量25 ～50L> 250～ 500mL <水量25 ～100L> 250～ 500mL <水量25 ～100L>	全土壌	東北以南	・専用ノズルを使用する ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する ・大豆の発芽開始後は、薬剤 が直接触れると葉害が発生 することがあるので注意する。 ・少量散布(25～50L)の場 合は専用ノズルを使用する。 ・作物に飛散しないように散 布する ・専用ノズルを使用する ・雑草の草丈30cm以下で使 用する	・問題雑草への効果 の確認(雑草茎葉塗 布処理)
			一年生広 葉雑草	茎葉 (雑草 塗布)	大豆着莢期以 降、 雑草生育期	2倍希釈 液 (0.1mLを1 ～3ヶ所/ 株)			・専用塗布処理器を使用する ・作物に付着しないように塗 布する ・分枝の多い雑草には2ヶ所 以上塗布する	

A. 除草剤

注1) アンダーラインは拡大部分 注2) 作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
アラコール乳 アラコール 43% [日産化学]	てんさい (直播)	—								(作用性)
	てんさい (移植)	実・継 (従来どおり)	一年生雑 草	土壌	てんさい定植 後、 雑草発生前	300～ 400mL ＜水量 100L＞	全土壌(砂 土を除く)	北海道		・中耕培土後処理で の効果、葉害の確認
トリフルリン乳 トリフルリン 44.5% [ダウ・ケミカル日本]	大豆	実・継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	200～ 300mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を 除く)	全域	・ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、 アブラナ科には効果が劣る	・中耕培土後の、畦 間・株間処理での効 果、葉害の確認 ・播種後出芽前処理 について北海道での 年次変動の確認
				土壌 (畦間)	中耕培土後 雑 草発生前					
	かんしょ	実・継	一年生雑 草	土壌 (畦間 全面)	かんしょ挿苗後、 雑草発生前	200～ 300mL ＜水量 100L＞	全土壌(砂 土を除く)	全域	・ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、 アブラナ科には効果が劣る	・効果、葉害につい て年次変動の確認
				土壌 (畦間)	中耕培土後 雑 草発生前					
トリフルリン粒 トリフルリン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	かんしょ	実	一年生雑 草	土壌 (畦間 全面)	かんしょ挿苗後、 雑草発生前	3～4kg	全土壌(砂 土を除く)	全域	・ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、 アブラナ科には効果が劣る ・畝肩のり面では効果が劣る 場合がある	
プロピザミド水和 プロピザミド 50% [ダウ・ケミカル日本]	苺(根株)	実・継	一年生雑 草	土壌	苺定植後、 雑草発生前	300g ＜水量 100L＞	全土壌(砂 土を除く)	全域	・キク科、カヤツリグサ科には効果 が劣る	・中耕後処理での年 次変動の確認 ・効果、葉害の確認 (東北以南)
					中耕後、 雑草発生前					
レグロック液 ジクワット 31.8% [シンジェンタ ジャパ ン]	大豆	継								・畦間・株間処理での 効果、葉害の確認(東 北以南) ・収穫前全面処理で の効果、葉害の確認 (東北以南) ・収穫前全面処理で の子実品質への影響 の確認

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含 有率(%)	作物名	判 定	使用規準						継続の内容	
			対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
BAW-0907液 クロルメコト 75%(w/v) [BASFジャパン]	春播小麦	—							(作用性)	
KUH-833F(M)プロ アブル プロヘキサジオンカルシ ウム塩 5.0% [クマイ化学工業]	春播小麦	実・ 継	・小麦対象 ・節間伸長 抑制による 倒伏軽減	茎葉	止葉期～ 出穂始期	150mL<水 量100L>	全土壌	北海道	・止葉期とは止葉が確認でき た日を目安とする	・100mL処理での効 果の確認
AKD-8182顆粒 水和 マレイン酸ヒドラントカ リウム塩 80% [アグロカネシヤウ]	ばれいしょ	継								・効果、葉害の確認
F-8426EO カルフェントラゾンエチル 6.4% [石原産業]	ばれいしょ	実・ 継 (従来ど おり)	茎葉枯凋 促進効果	茎葉	開花開始30日 以降(茎葉繁茂 期) (2回処理) 茎葉黄変始期 ～黄変期	200mL→ 150～ 200mL <水量 100L> 150～ 300mL <水量25 ～100L>	全土壌	北海道 全域		・茎葉繁茂期処理で の効果、葉害の確認 (東北以南) ・茎葉黄変期処理の 低薬量、少水量散布 での効果、葉害の確 認(東北以南)
JC-1201091液 3-decene-2-one 98% [アンバック ケミカル]	ばれいしょ	—								(作用性)